

# 慢性的要員不足で苦しんでいる現場に目を向けろ!!

## 経営協議会で職場問題の解消に向けて追求!

JR東海労新幹線地本は、4月11日に新幹線鉄道事業本部と「平成23年度実行計画」について経営協議会を開催しました。そのなかで、実際に職場で起こっている諸問題をどう解消すべきか労働組合の立場から問題提起しました。

## 未来ある若き被災者に救いの手を!

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、就職活動している学生などが内定取り消しをされて就職浪人が社会問題化するという深刻な影響をおよぼしています。

このような状況の中、被災者支援の一環として震災の影響を受けた学生・生徒や失職した人に対して、JR東日本は100人規模の、東武鉄道は最大65名の正社員採用を実施することを表明しました。

しかし、JR東海は、採用枠を拡大する考えは一切ないと言い切っています。

私たちは、「国鉄改革」のときに多くの企業に当時の国鉄職員を引き受けてもらった経緯があります。いまこそ、社会に対して恩返しをするときではないでしょうか。

## 休日出勤はやめて年休完全消化を!

新幹線の運転士・車掌は「休日出勤」があたり前になっています。会社は、労働組合に対して「早期の解消に向けて努力しています。」と言い続けていますが、すでに8年が過ぎています。職場では、運輸・車両・施設などの系統を問わず要員不足で苦しみ、年間20日間の年休が消化できないどころか保存休暇すら20日間の定量を越えそうな人が何人もいます。

会社は、年間で均すと20日間消化できる必要な人員は配置していると言っていますが、私たちの計算によれば、どんなことをしても年間20日間の年休が入らない要員配置の職場も多く存在します。

## ゴールドデンハンマーよりも昇格を!

車両所職場では、経験の浅い車両係に一定の教育・訓練をして技術系の範疇である検査業務を担わせています。(通称:ゴールドデンハンマー)

ところが、このゴールドデンハンマーの「栄冠」を授かった車両係が昇格試験に不合格になるという事象が発生しているのです。つまり、車両係の給料で検査業務という責任を負わせられているのです。

私たちは、ゴールドデンハンマーなどという会社にとって使い勝手のよい「制度」は即刻やめて昇格試験の合格枠を増やすことを要求します。「苦勞したものが報われる」が謳い文句の「人事・昇進制度」はやっぱりウソだったということが改めて浮き彫りになります。

# 原発の安全神話はすでに崩壊！！

## 福島第一原発再臨界の危機に！

東日本大震災の影響を受けて運転不能に陥り、事故を拡大し続けている福島第一原発は、4月12日に国際的な基準に基づく事故の評価を、最悪の「レベル7」に引き上げました。これは、経済産業省の原子力安全・保安院が、広い範囲で人の健康や環境に影響を及ぼす大量の放射性物質が放出されているとして、旧ソビエトで起きたチェルノブイリ原発事故と同じ評価に引き上げたのです。そして、測定される放射線量の急上昇から「再臨界」が起きているのではないかと懸念も報じられています。

## 原発が地震に強いは真っ赤なウソ！

経団連の米倉会長は、甚大な被害を出している、福島第一原発の事故に関して、「1000年に一度の津波に耐えているのは素晴らしいこと。原子力行政はもつと胸を張るべきだ。」と発言しました。

しかし、原発が地震に弱いということは2007年7月16日の新潟県中越沖地震で柏崎刈羽原発から放射性物質を含む水が漏れ出し、一部が放水口を通じて海に放出されていたことが確認されています。原発は、地震に弱いことは、今回の震災以前に、すでに証明されていたことです。

## 浜岡原発を即時運転停止に！

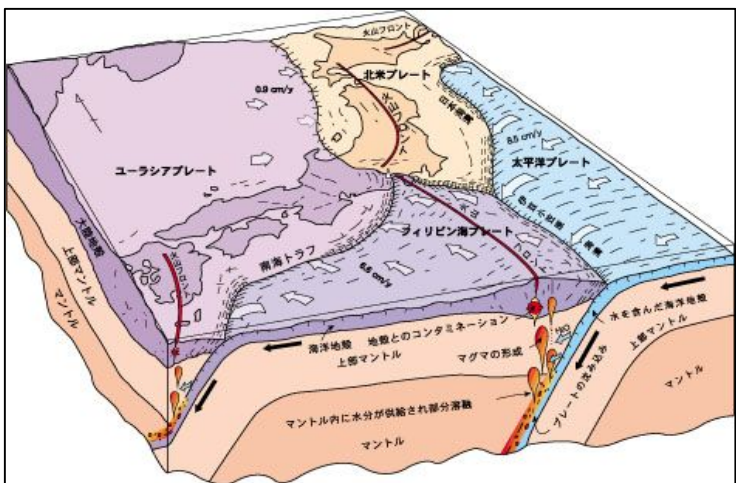
福島第一原発の事故は、改めて私たちに原発がいかに危険なのかという現実を突きつけました。これからの日本のエネルギー政策はどうあるべきなのか、原発は必要なのかについての国民的な議論が必要ではないでしょうか。そして、その議論の結果が出るまでの間、現存する原発すべての運転を停止するべきです。

とりわけ、静岡県御前崎市の浜岡原発は、即時運転停止するべきです。

浜岡原発は、フィリピン海プレートとの境界である駿河トラフに接する地点にあり、なおかつ活断層も存在するとの報告もある場所なのです。つまり、そう遠くはない将来必ず

起きるとされている東海地震の地震源の真上に建設されているのです。

福島第一原発の惨劇を二度と繰り返さないために浜岡原発は、即時運転停止するべきです。



JR東海労働組合新幹線地方本部  
東京都中央区八丁堀 2-1-2  
Tel:03-3551-2240 Fax:03-3551-2246  
E mail : jrcushinkansen@yahoo.co.jp